

## 最近の道内経済動向

- 道内景気は、新型コロナウイルスの影響を主因に依然として厳しい状況にあり、改善のテンポが鈍化している。
- 先行きは、感染状況が落ち着いてくることで、全体として徐々に持ち直しに向かうとみられる。

(注) 基調判断は、2020.12.21時点で入手可能な主要経済指標を参考とした(10~11月実績が中心)。

### ●個人消費は底離れしているものの、改善のテンポは鈍化している

10月の主要6業態別小売店販売額(全店)をみると、前年に特殊要因(消費税率引き上げ後の反動減)があったことなどから、スーパーや家電大型専門店などが前年を上回った。また、10月の乗用車新車販売台数は13ヵ月ぶりに増加した。ただ、11月以降、新型コロナウイルス感染再拡大を受けた人流の減少などが個人消費の下押し圧力となっているとみられる。

(注) 主要6業態とは、百貨店、スーパー、コンビニエンスストア、家電大型専門店、ドラッグストア、及びホームセンターを指す。

### ●観光は底入れしているものの、改善のテンポは鈍化している

外国人入国者数(11月)は、前年比▲100.0%と14ヵ月連続で前年を下回った。一方、11月の来道者数(国内交通機関経由)は、同▲46.4%と10ヵ月連続で前年を下回った。国内客は政府による旅行需要喚起策を受けて減少幅は縮小傾向にあり、全体として底入れしている。ただ、11月下旬以降、Go Toトラベルの札幌除外などを受けて、改善のテンポが鈍化しているとみられる。

(注) 外国人入国者数とは、道内で入国手続きした外国人数。来道者数とは、国内路線(航空、JR、フェリー)利用による旅客数(国内客と道外で入国手続きした外国人客)を指す。

### ●設備投資は減少している、公共工事は堅調に推移している、住宅建築は底入れしている

日本銀行札幌支店の12月の企業短期経済観測調査(北海道)によると、20年度の設備投資計画(電気・ガスを除く全産業、含むソフトウェア・研究開発、除く土地)は、前年比▲10.3%となった(9月調査比修正率▲2.0%)。前年度で大型投資が一巡したことに加えて、企業業績の悪化や先行き不透明感の強まりが投資マインドを下押ししている。公共工事は、既発注分を含めた出来高ベースでは堅調に推移している。ただ、11月の公共工事請負金額は、前年比▲18.3%(243億7百万円)と2ヵ月連続で前年を下回った。発注機関別にみると、高速道路のリニューアル工事の発注増加を受けて独立行政法人などが前年を上回ったものの、国、道などが前年を下回った。新設住宅着工戸数(10月)は、前年比3.0%増と3ヵ月連続で増加した。利用関係別にみると、持家が3ヵ月ぶりに前年を下回ったものの、貸家と分譲住宅が前年を上回った。

### ●生産は下げ止まりの兆しがみられる

鉱工業生産(10月)は、前月比7.1%増と2ヵ月連続で上昇した。大規模な定期修理が終了し「軽油、ガソリン」などが増産となった化学・石油石炭製品のほか、「特殊鋼棒鋼、特殊鋼線材」が増産となった鉄鋼などが上昇し、全体を押し上げた。

### ●輸出は低迷している

11月の通関輸出額(速報値)は、前年比▲18.0%(211億円)となり、16ヵ月連続で前年を下回った。品目別では、アジア向け「鉄鋼」や、「一般機械」などの減少が全体を押し下げた。

### ●雇用情勢は弱い動きがみられる

10月の有効求人倍率(パート含む常用)は、前年比0.30ポイント低下の0.97倍となり、10ヵ月連続で前年を下回った。飲食業や観光関連産業を中心に悪影響が顕在化している。

道内鉱工業生産指数の推移

道内における鉱工業生産指数をみると、2020年に入り、新型コロナウイルス感染拡大に伴う需要の減少や一部工場での一時的な生産停止などを受けて、幅広い業種で生産活動が大きく低下した。  
一方、足元では、依然として低水準ではあるものの、生産活動は2ヵ月連続で上昇、トレンドをみる3ヵ月後方移動平均も上向きに転じるなど、下げ止まりの兆しがみられる。

